



JAMCA ニュース

No.104

2020年1月1日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大京町31
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

CASE~100年に一度の大変革に向けて~

専門学校 トヨタ東京自動車大学校 理事・校長
全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

上田 博之



2020年(令和2年)新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、関係省庁はじめ関係団体・企業の皆様には一方ならぬご高配いただき感謝申し上げます。

さて今年は、日本ではオリンピックイヤーということで、例年とは一味違った年になるかと思っております。特に、自動車業界では、昨年、道路交通法および道路運送車両法が改正されレベル3の自動運転車が発売される土壌が整いました。いよいよモビリティ社会が夢のものではなく現実のものとしてスタートします。

100年に一度の大変革

自動車産業は100年に一度の大変革の時代と言われ、CASE(コネクティッド・自動化・シェアリング・電動化)などの技術革新が急速に進んできており、整備業界においても他人事ではなく、変革が求められます。

コネクティッド

コネクティッドカー(つながる自動車)の普及も徐々に広がり、ナビゲーションの地図更新に始まり、車両・顧客情報を共有することで、アプリによる利便性・エンタテインメント・安全といった新たなサービスが提供されてきております。今後は5Gの実用化で通信環境も大きく変化し、コネクティッ

ドサービスも更なるステージに移行していくものと思われま。

自動運転

日本でも、冒頭に触れた法改正により、高速道路における自家用車の自動運転(レベル3)、限定地域での無人自動運転移動サービス(レベル4)の実用化が期待されます。それに伴い、整備事業も自動運転システムの安全性を確保するため、新たな点検・検査が必要になり、より高度な知識、技能が求められます。

シェアリング

シェアリングによって保有台数が減少するという話も聞きますが、今後、シェアリングが普及してきた時に、日常点検の問題が発生してきます。常時店頭での引き渡しでなくなると、利用者が変わる都度、車両を点検するニーズも生まれてくるかもしれません。そうすると、これまでの定期点検よりも遥かに多くの頻度での点検が必要となり、整備士の需要も更に拡大するのではないのでしょうか。

電動化

これまで、乗用車の電動化の主流はHVで、市場規模は200万台で内4割以上を日本が占めていました。しかし直近では、中国が市場を牽引しEV・PHEVが急激に普及してき

ており2018年の新車販売台数は、HV・PHEV・EV合計で425万台となりました。

インセンティブ制度の影響で各国、地域で傾向は異なりますが、2035年には4000万台を超えるとも予想されています。

スマート社会に向けて

CASEは、今後の自動車業界が取り組むべき課題・あり方であり、これらに対応すべくメーカー、販売店、整備業界が変革していくでしょう。そして、整備士に求められる要件も、ただ単に技術・資格を持っているだけでなく、劇的に変わっていく時代の変化に柔軟に対応できる思考力とそれを実行に移せるスキルが求められてきます。その様な潮流の中、整備士を育成する大学校・専門学校として、変えるべき事と守るべき事をしっかりと見極め、変化に臆すこと無く学校変革にチャレンジして行かなければならないと思います。

CONTENTS

2面	日産ライフケアビークルの今と未来
3面	クルマ大好き!! 活躍!! 女子! 卒業生
4面・5面	レースメカニックの世界
6面・7面	協会トピックス・アイドルタイム・地区通信
8面	私の教材活用・お知らせ・編集後記